

原文部分:

どんぶりの小宇宙

初代林家三平さんに、三軒並んだラーメン屋の小咄がある。右端が「日本一うまい」と看板を出すと、左端は「世界一」できた。困った真ん中のおやじ、寝ないで考えたのが「入り口はこちら」。そんな爆笑王の高座を思い起こす異聞が、福岡から届いた。

博多ラーメンの「元祖長浜屋」は、麺だけのお代わり、替え玉発祥の店として知られる。袂を分かった元従業員らが昨年末、向かいに「元祖ラーメン長浜家」を開いた。4月には、その一人が「元祖長浜家」を近所に出すという。

三つの「元祖」がトンコツで競うことになる。あつれきを承知でそう名乗るからには、あとの二つも腕に覚えがあるのだろう。三平師匠ならずとも「もう大変なんすから」である。

麺とスープ、具だけの作りなのに、ラーメンほど深く研究されている外食はない。職人たちは独自の味を追い求め、行列のできる店がテレビや雑誌で紹介される。食べ手にも、一

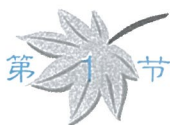
口すすりだけでダシを当てる達人がいる。

行列の元祖といえば、つけ麺を考案し、業界で神様と呼ばれる大勝軒（東京）会長山岸一雄さんだろう。理想の一杯を素朴に語っている。「毎日食べても飽きがこなくて体にもいい。成長期の子どものための栄養満点のスープであったり……」。鬼の異名をとるラーメン店主、佐野実さんとの対談だ。

元祖を争う伝統と、目新しさを競う情熱、そして神も鬼もいる話題性が、この国民食の爛熟を支えているらしい。どんぶりの中に広がる、数百円の小宇宙よ。日本人の舌は、つくづく勤勉だと思う。

2010年3月17日





どんぶりの小宇宙①

初代林家三平さんに、三軒並んだラーメン屋の小咄がある②。右端が「日本一うまい」と看板を出すと、左端は「世界一」できた。困った真ん中のおやじ、寝ないで考えたのが「入り口はこちら」。そんな爆笑王の高座を思い起こす異聞が、福岡から届いた③。

博多ラーメンの「元祖長浜屋」は、麺だけのお代わり、替え玉発祥の店として知られる。袂を分かった元従業員らが昨年末、向かいに「元祖ラーメン長浜家」を開いた。4月には、その一人が「元祖長浜家」を近所に出すという。



译文

拉面大战

第一代（单口相声演员）林家三平曾说过三家并排在一起的拉面店的小笑话：右边的一家挂出了“日本最美味”的招牌后，左边的一家便挂出了“世界第一”的牌子。这下难住了夹在正中间的那家店主，他夜不能寐，最后想出的牌子是“由此进门”。当我听到了一则来自福岡的趣闻后，我便想起了这位笑星讲的这个小段子（直译：从福岡

传来的趣闻，使我想起了这位笑星的讲台)。

卖博多拉面的“元祖长浜屋”是以首创“只添面条而不另收费”而闻名的。去年底，从此店跑出来的几个店员竟在其对面开了家“元祖拉面长浜家”。据说，4月份，他们中的一个要在这附近再开一家“元祖长浜家”(拉面店)。

- ① **注解** 直译：大海碗中的小宇宙。这里是意译。
- ② **注解** 「初代林家三平」(第一代林家三平。1925-1980)原名为海老名·泰一郎，为日本著名的「落語家」(单口相声演员)，其次子海老名·泰助为第二代，称「二代目林家三平」(第二代林家三平)。
- ③ **注解** 这句比较难懂。如果译为“从福冈传来了让人想起这位上座笑星的一些奇闻”就理解错了。



生词&例句

【どんぶり】^{どんぶり}【丼】大碗；海碗。**注意**「茶碗」指一般的饭碗，而「どんぶり」指大碗，还常用来盛汤面等。

- <例句> ●どんぶりにご飯を盛る。⇒ 往大碗里盛饭。
●彼は毎食どんぶり飯^{めし}で2杯食べる。⇒ 他每顿吃两大碗饭。

【初代】^{しょだい}(1) 第一代；第一任。(2) 开基创业的人；祖师。

- <例句> ●初代の校長。⇒ 第一任校长。
●新チームの初代監督に就任した。⇒ 就任新队的第一任教练。

【小咄】^{こぼなし}【小話】^{こぼなし}(1) 小故事。(2) 小笑话。**注意** 这里是指



说「落語」(单口相声)开始时用小笑话作引子。

<例句>●江戸小話。⇒江戸小故事。

【おやじ】^{おやじ}【親父】(1)(父亲的俗称)老头儿;老爹;老爸。
(2)店主;老板。(3)头目;头儿。

<例句>●おやじもおふくろも田舎にいる。⇒我家老爹老妈都在乡下。

●たばこ屋のおやじ。⇒香烟铺的老板。

【高座】^{こうざ}讲台。【注意】这里所谓的“讲台”，实际上是在舞台上设的“座台”，即演员坐在垫子上讲段子。

<例句>●落語家が高座に上がる。⇒单口相声演员登上讲台。

【思い起こす】^{おも}想起;回忆起。

<例句>●思い起こせば結婚前のことだ。⇒回忆起来，那是结婚前的事了。

●1枚の写真が昔のことを思い起こさせた。⇒一张照片让人想起了过去。

【異聞】^{いぶん}珍闻;奇闻。

【元祖】^{がんそ}鼻祖;创始人。

<例句>●カステラの元祖。⇒蛋糕的创始人。

●華佗は外科の元祖といわれる。⇒华佗被称为外科鼻祖。

【替え玉】^{かだま}替身。【注意】文中的「替え玉」指添加的面条，是拉面店的常用词。一般是吃完面条后，如需添加的话，店里的服务员会把煮熟的面条直接放进只有剩汤的碗里，不另收费。这种加面条法，叫作「替え玉」。

<例句> ●彼は替え玉を使って受験した。⇒ 他找人替他考了试。

●映画で危険な場面は替え玉が演じる。⇒ 电影里危险的场面由替身来演。

【^{たもと}袂を^わ分かつ】 离别；分手；断绝关系。【注意】这是一个惯用语。「分かつ」指：(1) 分；分开。(2) 隔开；区别。(3) 分辨；辨别。

【^む向かい】 对面；对过。

<例句> ●向かいの家はいまお留守です。⇒ 对面那家人现在都出去了。

●先生は私の家の向かいに住んでいます。⇒ 老师住在我家的对面。



みつ 三つの「^{がんそ}元祖」がトンコツで^{きそ}競うことになる。あつれきを
しょうち 承知でそう^な名乗るからには、あとの二つも^{ふた}腕に^{うで}覚え^{おぼ}があるの
だろう④。三平^{さんぺい}師匠^{ししょう}ならずとも「もう^{たいん}大変なんすから」である⑤。

めん 麵とスープ、^ぐ真^{つく}だけの作りなのに、ラーメンほど^{ふか}深く^{けんきゅう}研究
されている^{がいしょく}外食^{しよくにん}はない⑥。^{しよくにん}職人^{どくじ}たちは独自の^{あじ}味^おを^{もと}追^{もと}求め、
ぎょうれつ 行列^{みせ}のできる店^{ざっし}がテレビや雑誌^{しょうかい}で紹介^たされる⑦。食べ^て手^てに
も、^{ひとくち}一口^あすす^{たつじん}る^ただけで^あダシ^あを^あ当^あてる^あ達人^あがいる。



译文

三家“元祖”拉面店将要在猪骨汤（拉面）上展开竞争。后两家明知会引起摩擦，但还要起这样的店名（“元祖”），想必是对自己的手艺颇有自信吧。我虽不是三平大师，但还是借用一下他的口头禅：“这下可了不得了。”

做拉面好像很简单：仅配上面条、汤和菜就可以了，其实不然，其他饮食业远没有“拉面业”研究得深。（拉面店的）厨师们追求独特的口味，排长队的店会被电视和杂志加以介绍。食客当中有些达人吮吸一口就知道是用什么材料做成的汤。

- ④ **注解** 「あとの二つ」指从第一家“元祖”分离出来的后两家“元祖”拉面店。
- ⑤ **注解** 「もう大変なんすから」是「もう大変なんですから」的省略表达方式，多见于男性口语中。
- ⑥ **注解** 这句比较难懂。译文采用意译。另外，「外食」在这里并非单指在外边吃饭，而是还引申指除拉面以外的其他饮食行业。
- ⑦ **注解** 「職人」在这里指做拉面的厨师。



生词&例句

【トンコツ】^{とんこつ}【豚骨】猪骨；猪骨头。

- <例句> ● トンコツスープ。⇒ 猪骨头汤。
● トンコツラーメン。⇒ 猪骨汤面。

【競う】 ^{きそ} 竞争；争夺。

<例句> ● 先を競う。⇒ 争先恐后。

● 競って買い求める。⇒ 抢购。

【あつれき】 ^{あつれき} **【軋轢】** 冲突；倾轧；摩擦。

<例句> ● あつれきを避ける。⇒ 避免冲突。

● 両国間のあつれきが激しくなる。⇒ 两国间的冲突在加剧。

【名乗る】 ^{な の} 自报姓名；称作。

<例句> ● 警察の者だと名乗ってだます。⇒ 自称是警察来行骗。

● 田中と名乗る人が訪ねてきた。⇒ 有一个自称田中的人来过。

【腕に覚えがある】 ^{うで おぼ} (对自己的本事) 有信心；觉得自己有两下子。

【ならずとも】 即便不是……。 **【注意】** 「ならず」相当于「…でない、…ではない」。源于表示断定的助动词「なり」的未然形+表示否定的助动词「ず」，为古语用法。「とも」相当于「たとえ…しても」。

<例句> ● ファンならずとも楽しめる。⇒ 即便不是粉丝也可愉快地欣赏。

● 時代劇ファンならずとも一見の価値があります。
⇒ 即便不是古装戏的粉丝也值得一看。

【外食】 ^{がいしょく} 在外边吃饭。

<例句> ● 外食産業。⇒ 餐饮业。

● 今晚は外食しようか。⇒ 今晚在外边吃吧。

【職人】^{しよくにん} 有手艺的人；工匠。

<例句> ● 腕のいい職人。⇒ 能工巧匠。

● 職人を頼んで修繕してもらおう。⇒ 找工匠来修理。

【すする】(1) 吮吸；啜饮。(2) 抽吸。

<例句> ● スープをすする。⇒ 吸着喝汤。

● はなをすする。⇒ 抽鼻涕。

【ダシ】(用海带、鲣鱼等煮出的) 供做菜用或作为调料用的汤汁。

第 3 节

ぎょうれつ がんそ 行列の元祖といえ、つけめん ころあん を考案し、ぎょうかい かみさま よ 業界で神様と呼ばれるたいしょうけん とうきょう かいちやうやまぎしかずお 理事長山岸一雄さんだろ^{りそう}う^⑧。理想のいっぱい そぼく かた からだ 一杯を素朴に語っている。「毎日食べても飽きがこなくて体にもいい。せいちやう き こ 成長期の子どものためのえいようまんてん 栄養満点のスープであったり……」^{おに いみょう} ⑨。鬼の異名をとるラーメン店主、てんしゆ さのみ の りん 佐野実さんとの対談だ。

がんそ あらそ でんとう めあたらし さそ じやうねつ 先祖を争う伝統と、目新しさを競う情熱、そして神も鬼もいるわだいせい が、このこくみんしよく らんじゆく ささ 国民食の爛熟を支えているらしい。なか ひろ すうひやくえん しょうう ちゆう にほんじん した どんぶりの中に広がる、数百円の小宇宙よ。日本人の舌は、つくづくきんべん おも 勤勉だと思^⑩う。



译文

说起要在店前排长队的“元祖”（鼻祖）拉面店，那要数琢磨出蘸汤面的、被称为拉面界大王的大胜轩（东京）董事长山岸一雄先生了吧。在和有着“鬼才”之称的拉面店老板佐野实先生对谈时，他用朴素的语言描述了一碗理想的面条应该是：“即使每天吃也吃不厌，而且有益于健康。汤中则需具有小孩生长发育所需的丰富营养……”

看来是争夺“元祖”（鼻祖）的传统性、追求标新立异的热情以及“（拉面）大王”、“（拉面）鬼才”的话题等把这种大众食品推到了登峰造极的境地。大海碗中区区数百日元的拉面展现给人们的是一个精彩的（直译：不断扩展的）“小宇宙”。我认为，日本人对拉面的研究是锲而不舍的（直译：日本人的舌头很勤劳）。

⑧ **注解** 「行列」，字面上仅是“排队”，但实际上这里指的是排长队。食客为了吃上“元祖”拉面不惜花长时间排队等候。这说明“元祖”拉面很有人气。「神様」既可指神、上帝，也可指某领域里的专家、超人等，如「彼は野球の神様といわれている」（他被称为棒球王）。

⑨ **注解** 这句话是山岸一雄说的，而非佐野实。

⑩ **注解** 这句的主语是“我”，即作者本人。这句为意译。



生词&例句

【つけ麺^{めん}】蘸汤面。(面条和汤料分盛在两个碗里，吃的时候夹起面条先在汤料里蘸一下再吃。)【参考】：麵料理の一種。ゆでた中華そばを冷やしてざるに盛り、つけ汁につけて食べるもの。

【考案^{こうあん}】设计；规划。

<例句> ● 考案者。⇒ 设计者。

● 新しいデザインを考案する。⇒ 设计新的款式。

【飽き^あ】腻味；厌烦。

<例句> ● 飽きのこない味。⇒ 吃不腻的味道。

● この仕事には飽きがきた。⇒ 对这个工作已经厌烦了。

【異名^{いみょう}】(1) 别名。(2) 外号；绰号。【注意】此词不读「いめい」。

<例句> ● 彼にはいくつかの異名がある。⇒ 他有几个外号。

● 「パソコン博士」との異名をとる。⇒ 取得“电脑博士”的雅号。

【目新しい^{めあたら}】新颖；新奇。

<例句> ● ちょっと目新しい図案だ。⇒ 有点新颖的图案。

● それはもう目新しくなくなった。⇒ 那已经不新奇了。

【爛熟^{らんじゆく}】(1) 烂熟；熟透；熟过头。(2) 成熟；极盛；发展到了极点。



<例句> ●モモが爛熟する。⇒ 桃子熟过头。

- その小説は彼の爛熟期に書かれたものだ。⇒ 那部小说是在他的极盛期写的。

【つくづく】(1) 仔细。(2) 深切; 痛切。

<例句> ●つくづく考える。⇒ 仔细考虑。

- 失業のつらさをつくづくと感じた。⇒ 饱尝失业的辛酸。



日语难读词之角

- 裏金 (うらがね) : 小金库; 好处费。

費用をごまかし裏金を作る。⇒ 在费用上做手脚留作小金库。

- 立腹 (りっぷく) : 生气; 气愤。

ささいなことで立腹する。⇒ 因一点小事生气。

- 進物 (しんもつ) : 礼品; 赠品。

進物として贈る。⇒ 当礼品赠送。